

文 化 財 学 習 会

ふ る さ と 探 訪

テーマ 鬼無の桃太郎伝説を歩く

講 師 山元 敏裕
(市文化財専門員)

平成 2 6 年 4 月 2 7 日 (日)

共 催 高 松 市 歴 史 民 俗 協 会
高 松 市 文 化 財 保 護 協 会
高 松 市 教 育 委 員 会

目次

はじめに

・
・
・
・
1

1 鬼無桃太郎誕生秘話

「橋本仙太郎の功績」

・
・
・
・
2

2 鬼無桃太郎伝説

・
・
・
・
3

3 鬼無桃太郎伝説地

・
・
・
・
4

4 鬼無周辺に残る石造物

・
・
・
・
8

5 熊野権現桃太郎神社

・
・
・
・
9

はじめに

あなたの知っている桃太郎の姿はどのようなものでしょうか。桃から生まれ、犬・猿・雉を従え、鬼ヶ島に鬼退治に赴く、おとぎばなしの勇敢な主人公としての印象が強いのではないかと思います。

桃太郎の物語は、室町末期から江戸初期にかけて昔話の伝承の中で形成されたといわれており、江戸時代から庶民を中心に人気が広まりました。明治時代には小学校の国語教科書に採用され、全国で圧倒的な知名度を持つようになりました。また戦時中はその知名度から戦意高揚のために利用された歴史もあり、桃太郎は常に時代の風俗や世相の影響を受けてきました。

元来、桃太郎の物語は各地の伝承から生まれたもので、その内容は多岐に渡っています。やがて伝承の残る地域の遺跡や遺物はその物語と結びつけられ、桃太郎の伝説の地となりました。

高松市は昭和初期に橋本仙太郎氏によって鬼無の桃太郎伝説が提唱されたことを契機に、岡山県吉備路、愛知県犬山市とともに、「桃太郎三大伝説地」として知られるようになります。

1 鬼無桃太郎誕生秘話・橋本仙太郎の功績・

鬼無桃太郎の提唱者である橋本仙太郎（一八九〇・一九四〇）は、どのようなきっかけで桃太郎を研究するようになったのでしょうか。そのきっかけとは、

大正三年（一九一四）に大隈重信は高松から琴平へ向かう途中の鬼無駅での二、三分の停車時間を利用して、汽車の窓から首を出して訓示を行いました。

「此の駅名は鬼無（おになし）かと思えば鬼無（きなし）……仲々面白い地名である。村民諸氏は個人といわず、団体といわず、皆共におづか村の名のそのように、心の中に鬼を置かない様に修養に努めて極楽のような村とし邦家の為め奮闘せられ度い云々」

プラットホームで小学生を引率して歓迎していた橋本仙太郎は、大隈重信の話を聞き

「元来鬼無には鬼征伐の伝説が残っているし、鬼無の権現谷には鬼塚、勝塚、セル塚、桃太郎塚、芝山、婆々池があること、祖母の出里が鬼無の権現谷であったこと」

に気づきました。

大自然の背景と郷土の伝説がもたになっていると考えた彼は、鬼無の遺跡と関連させて校務の余暇を利用して桃太郎伝説の考証を行いました。

《業績》

- ・昭和五年（一九三〇）論文「童話『桃太郎』の発祥地は讃岐の鬼無」が地元新聞『四国民報』（四国新聞）に三ヶ月間連載
- ・昭和六年（一九三一）女木島で人工の洞窟を発見し、この島こそ鬼ヶ島で、鬼は瀬戸内海を荒らし回っていた海賊であると結論付ける
- ・昭和七年（一九三二）『鬼無傳説桃太郎さん 鬼ヶ島征伐』を発刊

2 鬼無桃太郎伝説

今からおよそ二〇〇〇年前、神高部落（鬼無町）には旧家神高家の祖先とされる老夫婦がいたが、夫婦の間に子どもがいなかったので、子宝に恵まれるように祈っていました。

そこにやって来たのが、桃太郎の正体とされる、第七代孝靈天皇の第八皇子稚武彦命（わかたけひこのみこと）です。吉備津彦命を兄に持つ彼は、鬼征伐を目的に都から讃岐へ下つ

て来ました。その際、夫婦に拾われて養子になりました。

当時讃岐で恐れられていた海賊は鬼と呼ばれ、女木島や男木島を根城としていました。この鬼が今の鬼無近辺に上陸して暴威を振るっていました。桃太郎は早速退治しようとして、きびだんごを腰に援軍を募りました。お供となった犬、猿、雉は、讃岐若しくは瀬戸内海の島々に実際に住んでいた人々で、犬は備前の犬島（岡山県）、猿は陶の猿王（綾川町）、雉は雉ヶ谷（鬼無町）に住む勇士でした。

桃太郎軍は鬼ヶ島で海戦、陸戦、石合戦、特に大岩窟内（女木島、男木島）での戦いにおいて、苦戦しつつも大勝利を収めて無事凱旋しました。

凱旋当日の夕暮れ頃に鬼の逆襲に遭い再び苦戦しましたが、鬼は返り討ちとなりました。戦の終結後、鬼はすっかりいなくなったので、この地は鬼無と呼ばれるようになりました。

3 鬼無桃太郎伝説地

橋本仙太郎が鬼無の遺跡と関連させて桃太郎伝説の考証を行ったのが、次の伝説地です。

(1) 柴山

お爺さんが柴刈りに行った山。かつては桃林であり、「鬼無柴山の桃林」といって有名でした。現在の社会福祉法人大寿庵 大寿苑のあたりをさします。

(2) 本津川

お婆さんが洗濯をしていた川。特に永代橋（えいたいばし）付近をさします。かつて住民が遍路の接待をしていたところから、永代橋は「接待橋」とも呼ばれています。

(3) 大古家（おおふるや）

桃太郎のお爺さんとお婆さんがいた家。源平合戦屋島の戦い当時、寿永元年（一一八二）安徳帝の行幸があった所と伝えられており、安徳帝が使用した井戸も「安徳の井戸」として残されています。



大古屋

(4) 神高の古宮さん

桃太郎が鬼ヶ島へ鬼征伐に行った時、ここにお参りして戦勝祈願しました。神高の荒神さん、澳津神社、古宮さんなどの呼び名があります。場所には諸説があります。

(5) 雉ヶ谷（かしがたに、きじがたに）

犬、猿、雉と呼ばれたお供をしていた人物のうち、雉の勇士の出身地。

(6) やらい屋敷（桃太郎屋敷）

鬼の逆襲を避けるため、桃太郎が「大古家」からこの地に移った時、この「やらい屋敷」と日越神嶺（ひこしがみね）に築いた城で作戦を練り鬼の逆襲に備えました。「やらい（遣らい、讎）」とは、追い払うという意味です。

(7) 日越神嶺（ひこしがみね）

桃太郎が鬼の逆襲を避けるため、「大古家」から「やらい屋敷」に移った時、この山に城を築きここで作戦を練りました。

(8) 竹林(たけばやし)

鬼の逆襲の舞台となった戦跡地。竹林はこの村田の弁天さんの南側にあり、本津川の堤防林だったとされています。

(9) セリ塚

鬼が逆襲してきた時、鬼と桃太郎がせり合った末、鬼を退治して屍を埋めた所。現在の鬼無駐在所の裏にあたります。

(10) 鬼ヶ塚

逆襲にきた鬼を退治し、その屍を埋めた所。戦時中は一時期軍人墓地になっていました。現在は駐車場になっています。

(11) 桃太郎塚

桃太郎の墓。昔はこの辺り一帯が桃畑で、祠もありましたが、現在は高さ六十cmくらい



鬼ヶ塚

の自然石が残っているのみです。塚は桃太郎神社の裏手の斜面にあり、境内には犬、猿、雉の墓とされる石も並んでいます。

4 鬼無周辺に残る石造物

(1) 常夜燈・道しるべ

常夜燈の竿に「八幡宮」と刻まれているように、香西の宇佐神社への奉納灯籠です。秋祭りの折には安徳氏子中によってここに幟が立てられています。道しるべは小さいが形がよいもので「右いちのみやみち」と刻まれています（実際は左へ進む）。



常夜燈・道しるべ

(2) 道標

安徳墓地の入り口に「是より一宮六十七丁」と刻まれています。根香の三丁目にあ

るのとまったく同じ形式のものであるそうです。

(3) 地藏堂

二間四方の堂で、そのうち三面は戸が入ってあけはなしになる古い形式の堂です。珍しいのは堂の柱を角塔婆（角材の卒塔婆）を使用していることで、他にあまり例を見ません。道端集落の人によって「お座」や地藏まつりが行われており、昔は遍路が止まったりすることもあったといえます。



道標

5 熊野権現桃太郎神社

悪鬼を退治した熊野権現を祀る熊野神社は、古くから鬼無の信仰の拠点でした。「熊野神社」は昭和二十八年（一九五三）に宗教法人となり、昭和六十三年に愛称を「熊野権現桃太郎神社」にして神社本庁の承認を得ました。神社には、桃太郎を描いた絵馬や凧などの

作品が奉納されています。

境内脇の広場では、毎年春頃に子ども達の健やかな成長を祈念して、鬼無桃太郎まつりが行われています。まつりでは、子ども達による桃太郎の鬼退治寸劇や、大縄跳びや校区対抗相撲大会も行われます。



桃太郎神社

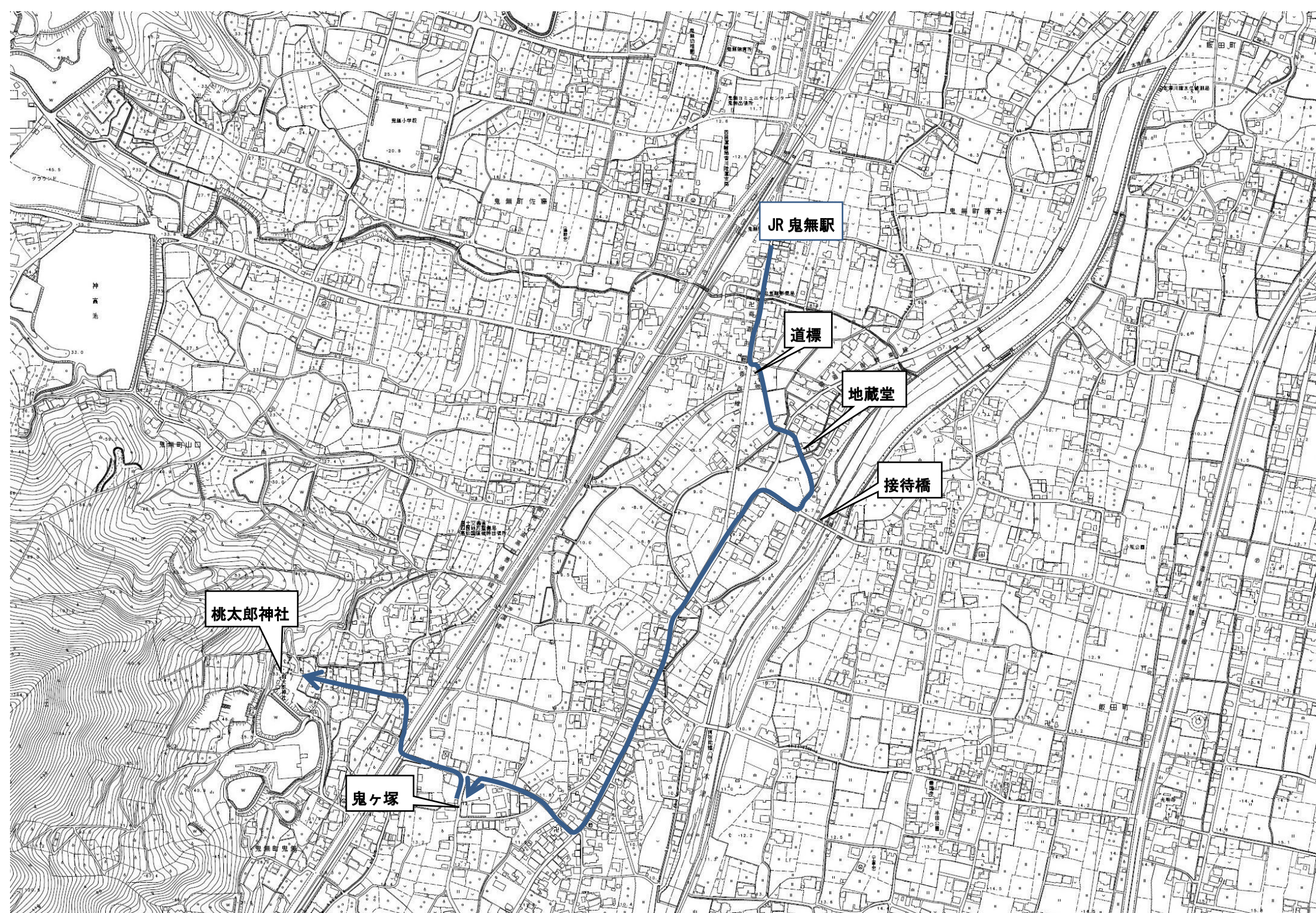


犬・猿・雉の墓

全国の桃太郎伝説地



※加原奈穂子著の桃太郎資料参考



4月27日（日） 鬼無町からの復路

◆JR予讃線

（鬼無駅）

（高松駅）

12：15 発 → 12：23 着

12：44 発 → 12：51 着

次回のふるさと探訪は・・・

テーマ 十河城跡を訪ねる

とき 平成26年5月25日（日）

9：30～12：00頃

集合場所 十河コミュニティセンター

講師 大嶋 和則さん（市文化財専門員）

☆広報「たかまつ」5月15日号に開催案内を掲載しますので、ご覧ください。

☆小雨決行。警報発令等により中止の場合のみ、文化財課（TEL 839-2660「午前7時30分～開始時間まで」）でお知らせします。（電話が通じない場合は、「実施」です。）



★次回の交通案内★

◆ことでんバス

〈レインボー・サンメッセ 川島・フジグラン十川行き〉

（高松駅）

（瓦町バス停）

（十河小学校前バス停）

7：40 発 → 7：50 発 → 8：24 着

8：15 発 → 8：25 発 → 8：59 着

「ふるさと探訪」に 参加される皆様へ



※ 参加中は、次のことに充分留意し、
安全で意義のある探訪としましょう。

- 1 交通ルールを守り、交通安全を心がけましょう。
(必ず歩道を歩き、歩道が無いところでは、道路の端を一列で歩きましょう。)
- 2 無理をせず、体調には十分気をつけましょう。
- 3 引率者の指示に従い、整然と行動しましょう。
- 4 マナーを守り、他人に迷惑がかからないよう気をつけましょう。
- 5 文化財や自然を大切にしましょう。